

厳しかった冬の寒さが和らぎ、校内の木々もその蕾を膨らませ、新たな生命を生み出す春の躍動が随所に感じられますこのよき日、学校政策課長補佐 富高 啓順 様を始めとする多数の御来賓、保護者の皆様の御臨席を賜り、第七十回卒業式が盛大に挙行できますことに、心より感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとう。そして、深い愛情で卒業生を支えて来られた保護者の皆様、御卒業、おめでとうございます。

卒業生の皆さんは、創立百二十周年を迎えようとするこの延岡高校で、仲間と支え合い、高め合い、充実した高校生活を送ってこられました。その内容の濃い三年間に対して、校長として心からの敬意を表します。

私にとって四十年ぶりの母校は見事な進化を遂げていました。その一つが、生徒と教職員との強い信頼関係です。卒業生の皆さんは、入学以来関わってこられた先生方の熱心な指導の下、伸び伸びとその力を発揮してきました。それは本校の校訓の一つ、「自治」の精神によく表れています。

自治とは何でしょうか。私なりに答えるとすれば、それは「周囲と協議を重ねながら自分のなすべき事を見つけ、自らの意志で行うこと」であります。皆さんは、延高三年間の中で、例えば、萌樹祭などの学校行事や日々の授業の中で、その力を磨いてきました。私は現代社会において、最も重要なものの一つがこの力だと考えています。

ロンドンビジネススクールのリンダ・グラットン教授は、その著書の中で、人生百年時代の到来を告げています。彼女が数々のデータを分析した結果、現在十歳の子供の平均寿命は、世界各国で大幅に伸びることとなり、日本の場合百七歳になるそうです。

このような時代に生きるためには、今までのような直線的な生き方の発想ではなく、ジグザグ型の生き方が求められると、グラットン教授は予想しています。すなわち、学びを終えて社会に出て、定年を迎えて引退し人生を終える、という直線型ではなく、人生の節目で学びを繰り返す、ジグザグ型の人生です。

このような生き方をするためには、私たちは学ぶことに対して、考え方を変える必要があります。そのヒントが、アップルの創始者、スティーブ・ジョブズの言葉にあります。それは、「学んできた点と点を結ぶ線が、いつか現れる」というものです。

彼は学費が払えなくて大学を中退しますが、それでも興味のある授業だけは聴講していたそうです。その中の一つがカリグラフィーという授業でした。日本語で言うと書道です。つまり、アルファベットをいかに芸術的に書くか、という授業です。

ジョブズは言います。その時はその授業が将来何の役に立つのか、などとは考えもしなかった、ただ、おもしろそうだと思って受けただけだった、と。

しかし、それが後に、我々の生活に大きな影響をもつ決断へと繋がります。皆さんは、コンピューターの文字入力にフォントという欄があるのを知っているでしょう。ジョブズがその仲間とともに、世界初のパソコンを世に出す時、彼はフォントという概念を打ち出したの

でした。

今我々は、コンピューターで文書をつくる際、当たり前のように自分の好みのフォントを選ぶことができます。しかし、それは、ジョブズがただおもしろそうだからというだけで、カリグラフィーという授業を受けていなければ生まれなかった概念なのです。まさに、何の役に立つのかわからなかった過去の学びという点が、その時やりたいことという点と、線で繋がった瞬間でした。

改めて、高校卒業という節目に当たり、卒業生の皆さんに次のメッセージを贈ります。それは、いつでも学びを繰り返すことのできる人間でいてほしいということです。そして、将来何の役に立つかわからなくても、興味のあることであれば、積極的に学ぼうとする姿勢を持ち続けてほしい、ということです。

皆さんの生きていく世界は、縦のスケールでは、百年という時系列で進んでいきます。また、横のスケールでは、グローバル化という地球全体を視野に入れた世界でもあります。それは多くの可能性を秘めた世界です。なぜなら、これまで見たこともなかったモノが生まれ、考えたこともなかった概念が現れる世界だからです。

しかし、恐れる必要はありません。皆さんには延高時代に身につけた、あるいは身につけようとしている「自治」の精神があります。繰り返しますが、自治とは「周りの者と協議しながら、自分のなすべきことを決断し、実行すること」です。そしてその精神によってのみ、人間は新しいことを生み出すことができるのです。

皆さんの母校はその力を身につけさせようとしてここに存在してきました。その延高の卒業生として、胸を張って、この二十一世紀の世界で自らの力を、思う存分発揮してください。

卒業生の皆さんが、新しい時代に生きる人として、社会のために貢献できることを期待しています。そして、周囲の人たちと協力し合いながら、明るく幸福な人生を送ることを心から願っています。

最後に、本日御臨席の皆様の御多幸を御祈念申し上げますとともに、卒業生並びに在校生、そしてこの伝統ある延岡高校に対して、引き続き温かい御支援をお願い申し上げ、式辞といたします。

平成三十年 三月一日  
宮崎県立延岡高等学校 校長 宮野原 章史